

国立病院機構熊本医療センター

No.155



くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096)353-6501(代)
FAX (096)325-2519

本年度も新臨床研修医を迎えました



研修部長
清川 哲志

新しく17名が臨床研修をスタートしました。基幹型プログラムとして15名、熊本大学のプログラムとして2名です。出身大学は山口大、産業医科大、久留米大、熊本大、宮崎大、鹿児島大で、女性9名と男性8名となりました。オリエンテー

ションでは各部門の実習を行い特に看護実習では看護師さんの仕事の大変さを痛感したようです。オリエンテーションの最終日には、「臨床研修の目標について」グループワークを行い、研修2年次の先輩に対して研修の取り組みに向かう意気込みを発表しました。今年度は研修2年次が、積極的に新人の指導に当たっています。チーフレジデントの宮川先生やサブの川原、大内先生を核に2年次全員が採血指導や夜間救命救急外来のガイダンスで実際の手技や取り扱いを指導しています。2年次は一年前の自分を振り返りながら、新人が戸惑っていることについて親切なアドバイスをして

います。なかなか頼もしい先輩ぶりを見せています。

研修プログラムでは最初の一年間は、2ヶ月ごとに外科系（外科、内科、麻酔）と3つの内科分野をローテーションします。昨年からの変更点としては、内科系と外科系を交互に組み合わせました。これは、早く多くのスタッフに慣れてもらうことを目的としています。バランスのとれた研修になればと期待しています。広い分野での忙しい研修となりますが、「患者さんとしっかり話ができること」と「全身管理ができること」を目標に指導計画を立てていきます。

新人のはつらつとした表情、2年次の少し余裕の持った表情を見比べながら、研修医をどこまで伸ばせるのかが毎年の課題です。本年度から研修指導体制を強化するために、豊永医長、鶴田医長がプログラム委員に加わっていただきました。これまでの大島医長、瀧医長、宮尾医長とともに取り組みを充実させていきます。スタッフの皆様には、研修医の指導につきましてお願いすることが多々あるかと思えます。よろしくお願いいたします。



池井聰院長を中心に17名の新臨床研修医



病診連携に感謝

医法) 社団清翠会
前田内科胃腸科
小児科クリニック
院長 前田 一郎



熊本市の北部、清水本町で父の医院を継承し開業して16年になります。父が小児科も診療していましたので、内科・胃腸科・小児科を標榜しております。年齢を問わず又すべての診療科にお世話になっていきます。

国立病院機構熊本医療センターといいますが、昭和30年頃私の父が勤務していました。当時まだ小学校に入る前、物心がつき始めた頃で、母に“お父さ

んは”聞けば“今、国立病院（当時）で仕事”という会話を何回もしたことをかすかに記憶しています。

さて、私はといえば、貴院にあまり縁がなく研修・勤務する機会がありませんでした。しかし開業してからは、困ったときなど相談することが多く、特に河野先生には度々電話1本でいろいろコメントを、又適切なアドバイスをいただきました。又時間外特に週末や、救急に患者さんを診ていただく際、快く受け入れていただき感謝しています。

さらにありがたいのは総合診療科の存在です。現在はほとんどの病院は臓器別・専門別のスタイルをとっています。時々紹介する診療科を迷ったり、全く見当がつかない場合があります。そういう時にはまず総合診療科を考えています。もちろん丁寧な返事を見て、最新の医療・知識を教えてください、日常の診療に役立てています。そういう意味で安心して患者さんを紹介できる病院であり、今後ご迷惑をかけると思いますがどうぞよろしくお願い致します。

最後に、国立病院機構熊本医療センターが地域医療の中心となり、ますます発展されることを祈念します。

FAX紹介での時間予約制をご活用下さい

日頃、多くの患者様をご紹介頂きまして誠に有り難うございます。紹介患者様の待ち時間を短くするためにFAX紹介で時間予約ができます。月から金の日勤帯です。

当院のFAX紹介用紙に受診希望日を入れてお送り下さい。担当者がカルテを作成し希望日に時間予約を取りましてFAXにて返信致します。是非、FAX紹介での受診日の指定と時間予約制をご活用して頂き、患者様の待ち時間短縮にご協力下さい。よろしくお願い申し上げます。

(経営企画室長 中村 敦)

■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょう NEWS』編集室まで

熊本県美術連盟と美術作品に関する 協定がかわされました

去る3月19日吉日、国立病院機構熊本医療センターと熊本県美術家連盟の間で美術作品に関する協定が交わされました。この協定は、当院の壁面装飾を目的とした企画に賛同頂いた同連盟の先生方に一定期間絵画を委託して頂くという内容です。当日は同連盟を代表して、会長の春口光義様、同連盟美連展委員長の福田眞様にご出席頂き無事に調印を終えることが出来ました。

この企画は新病院移設に伴い、広い壁面を利用し、絵画などで装飾出来ないだろうかと思いついた事がきっかけで始まりました。しかし、このような企画は初めての事で、何から始めて良いのか、何を準備して良いのかなど、わからない事ばかりでした。そんな折、熊本県美術家連盟をご紹介頂き、春口会長と福田委員長にお会いする機会を作って頂き企画実現へ向けて前進する事が出来ました。同連盟会員の方々にこの企画にご賛同頂いてからは、会員の方々の出展募集に始まり、搬入、絵画の配置、展示、プレート作成と慌ただしく時間が過ぎていきました。不慣れなため、全て順調にとは行きませんでした。管理課長、企画課長をはじめたくさんの方々のご協力により、思いつきが段々と形になり「病院のアートストリート」が遂に完成し、先日無事に調印式を迎えることが出来ました。

この日を迎えるまで、大変な事もたくさんありましたが、沢山の方々が足を止めて絵画を眺められている姿をお見かけしたり、患者様から「これは誰が描いたと？」

「絵ば見て回りよったら待ち時間があつという間に過ぎた！」と声をかけて頂くと、それまでの苦労も忘れ、この企画を実現出来て良かったと喜びにかかります。

沢山の絵画に囲まれ病院全体が明るい雰囲気になるだけではなく、観る人の不安を取り除き、心を穏やかにするなどの効果があります。病院だからこそ、なくてはならないものなのかもしれません。

現在、55名の先生方から69の作品を寄託頂き、院内4階のメインフロアを中心に展示しております。これからも、定期的に絵画を入れ替えるなど工夫をし、患者様、スタッフの「心の癒し」になるよう美術館ストリートを目指し努力してまいります。まだご覧になられてない方は、是非一度足を止めて絵画を楽しまれて下さい。

(救急救命部長 高橋 毅)



小児科アレルギー外来の初診予約について

先生方には平素より患者様のご紹介で大変お世話になっております。

当科では月・金曜日にアレルギー外来を行っております。

アレルギー疾患では詳細な問診が必要ですので、初診の患者様につきましては30分～1時間ほど診察時間を要し、午前中、1日2名の予約制(①9時～②10時～)にて診療させていただいております。

最近はおかげさまでご紹介患者様がぐんぐん増えて存じております。しかしながら、せっかくご紹介いただき受診されても、予約されていない場合は診察ができません患者様にご迷惑をかけることとなります。

お忙しい中、大変お手数ですが、受診の際には患者様より前もって小児科外来までご予約をいただきますよう、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

お電話は診療時間内(8:30～15:00)にお願いいたします。

ご予約先 TEL: 096-353-6501 (代表) 内線3010
小児科外来



新病院施設紹介〈6〉

研修センター

研修センターホール



研修室 1



研修室2



研修室 3



ロビー



皆様に24年間ご利用頂きました国立病院機構熊本医療センター地域研修医療センターは、病院の新築移転に伴い、新病院の2階に移りました。新研修センターは、研修ホールと3つの研修室を備え、研修ホールは最大300名収容可能となりました。研修内容は、これまで通り、医師部門、歯科医師部門、薬剤部門、看護部門、医療技術部門に分かれて行われますが、医師の研修部門では、これまでの初期治療講座にかわり、症状・疾患別シリーズが年10回シリーズとして新しくスタートします。建物も新しくなり、研修内容についても新しい気持ちで取り組んで参りますので宜しくお願い致します。研修、施設利用のお問い合わせは、右記にお願い致します。

(地域医療研修センター主幹 野村 一俊)

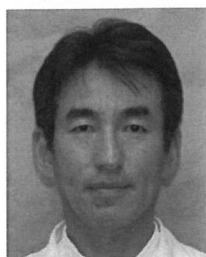
TEL 096-353-3515 (直通)

TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630

FAX (直通) 096-352-5025

2010 診療科紹介(24)

歯科・口腔外科



医長
中島 健
口腔外科、一般歯科
日本口腔外科学会専門医



医師
藏本 和咲
口腔外科、小児歯科
障害者歯科・一般歯科
日本口腔衛生学会認定医
インフェクションコントロールドクター

診療内容・特色

当科では、口腔外科疾患を中心に、有病者歯科医療、高齢者歯科医療、障害者歯科医療、一般歯科医療をおこなっています。当院は多くの病床を持っており入院患者さんの口腔に関する訴えに対応すること、さらに口腔機能を回復させ、栄養状態を改善させることが重要だと考え治療を行っています。また、口腔内の清掃と摂食嚥下機能の改善のため口腔ケアを実施し、看護師への口腔ケア指導も行っております。

県内の歯科医院との連携を強めており、智歯の抜歯依頼を筆頭に口腔や顎骨の腫瘍、嚢胞性疾患、炎症、骨折などの外傷、粘膜疾患など紹介をいただいております。近年、増加傾向にある基礎疾患を持っている患者の口腔外科的治療も院内各科や主治医の先生と連絡を密にとりながら、細心の注意を払いつつ行っております。また、顎骨壊死が問題化されているビスフォスフォネート服用中の患者の紹介も増えてきています。

院内からは、特に血液内科から化学療法、造血幹細胞移植患者の実施前紹介をいただき、口内炎や発熱の減少につながっています。また、ゾメタ投与前の歯科検診と定期的なメンテナンスも徹底され、顎骨壊死の予防策をとりやすくなってきました。現在、誤嚥性肺炎や口内炎の発症を減らし、在院期間の短縮に寄与するべく歯科衛生士を含めた病棟での口腔ケアに力を入れているところです。



医師
片岡 奈々美
口腔外科、障害者歯科
一般歯科
日本口腔衛生学会認定医
インフェクションコントロールドクター



医師
佐藤 みやこ
口腔外科、障害者歯科、
一般歯科

診療成績

当院は救命救急センター、開放型病院、地域医療支援病院と多くの指定を受けていますが、それに伴って当科の紹介患者が年々増加し、年間500例を越すという著しい増加を示しています。新患は平成20年度が1805名、平成21年度が1810名で紹介率は月平均34.4%でした。紹介患者の増加に伴い、入院加療を必要とする口腔外科患者も年間75名、全身麻酔での手術ケースが37件ありました。さらに、地域の歯科医院などへ紹介する逆紹介率も20.3%と大幅に増加しております。

入院には口腔腫瘍、顎骨嚢胞、顎骨骨膜炎、顎骨骨髓炎、蜂窩織炎、顎骨骨折、埋伏歯抜歯、口腔出血、障害者の歯科治療、歯科恐怖症の全身麻酔下治療、統合失調症患者の歯科治療などがあります。

研究実績

白血病・造血幹細胞移植患者の口腔ケアの研究には力をいれ、看護師とチームを組んで学会での講演や学会雑誌に発表しております。昨年度は粘膜疾患の症例報告を学会にて行いました。

ご案内

外来診療は月曜から金曜の8:30~17:00、新患受付は8:15~11:00(急患は除く)、手術は火曜・木曜の午後にあて、他の曜日の午後は外来小手術と他診療科入院患者の歯科治療を行っております。

また、歯科医師研修として、熊本市歯科医師会との共催による医歯連携セミナー(6月、10月、2月)、臨床口腔外科講演会(8月、3月)を、当院研修センターにおいて開催しております。本年より、熊本摂食嚥下リハビリテーション研究会を年8回当院研修センターで行う予定としておりますので興味のある方は是非ご参加ください。日程については御案内する予定です。

タイ・コンケン病院訪問報告

昨年（2009年）11月16日に当院はタイのコンケン病院との姉妹協定を締結しました。コンケン病院と国立病院機構熊本医療センター間の相互理解と友好を通じて学术交流を促進し、両施設での教育の発展と研究プログラムを推進することを目的としています。そして今回私は平成22年3月21日～平成22年3月23日まで日本で2年間の研修を修了した研修医、太良君と伴にコンケン病院を訪問し、両施設間の共同プロジェクトについてその計画案を提示し意見を交換してまいりました。

日本は少子高齢化が進んでおりその対応に迫られています。その一方でタイでも現在急速に高齢化が進行しこれに対する対策が急務となっています。そこでまずは高齢者ケアの中心となる看護師の交流および意見交換などを行いながらより良いシステムを創造していくことを提案しました。まずコアとなるような人物を育て、さらに高齢者治療（ケア）に関する国際シンポジウムを開催して双方の活動を紹介しながら円滑な交流を図っていく予定です。また日本の看護ケアを学ぶトレーニングコースも計画しています。

これから臨床各科、コメディカル各部門での医療技



コンケン病院でのセミナー（武本医長・太良医師）

術の研修・指導、タイにおけるクリティカルパス導入・指導、救急医療での施設見学や成果発表を含めた国際交流、看護教育に関する施設見学や研究発表会による看護師交流地域に密着したタイ、コンケンでのコミュニティ活動見学と熊本での応用など、両国における医療発展に役立つような活動を行ってまいります。今後も当院が担っている国際協力にお役に立てればと思います。（血液内科医長 武本 重毅）

タイ・コンケン病院研修報告



歓迎会のポスターの前で（左 武本医長・右 太良医師）

ご無沙汰(?)しております、私太良史郎と申します。熊本医療センターでの2年間の研修を修了し、4月1日より熊本大学附属病院血液内科に勤務しております。この度熊本医療センターと姉妹提携を結んでいるタイのコンケン病院で10日間の研修をさせていただく機会を得ましたので、御報告申し上げます。

コンケン病院では救急センター及び血液・腫瘍内科にて研修させていただきました。救急センターでは、WHOの支援を受けて独自に開発したERシステムについて教わりました。年間の救急車搬送件数は1万台で、特にオートバイによる交通外傷が多い他、日本との違いとしては動物咬傷（イヌ・ヘビなど）や寄生虫感染症が多いのが印象的でした（イヌ咬傷は1日平均20人!）。血液・腫瘍内科では、ターミナル・ケアに僧侶が精神

的ケアとして介入しており、仏教国ならではの印象を受けました。

また医師・看護師の英語力の高さも印象的でした。各種カンファレンスは英語で行われ、医師・看護師はもちろんのこと学生・研修医も含めて活発な議論が行われていました。検査・治療機器などのハード面では日本より遅れはあるものの、人材や教育システムなどのソフト面ではむしろ見習うべき点が多いというのが率直な感想でした。

最後になりますが今回の貴重な研修の機会を与えて下さった熊本医療センターの関係者の皆様、特に武本先生には研修実現にあたってご尽力いただき、この場をかりて改めて深謝申し上げます。この国際的かつ刺激的な研修が今後も後輩へと引き継がれ、コンケン病院と当院との連携が益々密なものとなることを切に願い、報告の結びとさせていただきます。

（熊本大学医学部附属病院血液内科 太良 史郎）



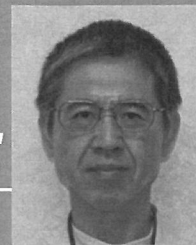
コンケン病院の研修医と（太良医師）

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ 43回

Type A急性大動脈解離の緊急手術の決定に必要な因子の探索研究

心臓血管外科医長 毛井 純一



急性大動脈解離は本来二重にくっついている大動脈の内側の膜（内膜）と外側の膜（外膜）が突然引き裂かれてしまう病気です。下図：大動脈解離の説明図。内膜に亀裂ができ、そこから内側（真腔）の血流が内膜と外膜の間（解離腔）に入りこんでしまうため、内外膜が引き裂かれてしまうのですが、外膜は薄く周囲に破裂したり、解離腔のほうが大きくなって真腔を閉塞させて、血流を途絶させたりします。

心臓に近いところ（上行大動脈）に解離が起こるタイプでは、大動脈破裂や脳血流の途絶などで発症1週間以内に多くの患者さんが死亡してしまいます（このタイプはType Aといいます：下図）。そのためType Aの急性大動脈解離では人工心肺を使った心停止、低体温、体の血流停止を要する大がかりな緊急手術が行われています。

しかし、心臓外科のある国立病院機構の病院でこの疾患の研究を行ったところ、手術しなくても50%程度は救命できることもわかってきました。一方、緊急手術を行った場合、大がかりな手術ではありますが死亡率は8%程度と50%に比べ格段に良いため、現在はType Aではほぼ全例が緊急手術方針となっています。しかし、実際には手術までしなくてもよかった症例も多いことになり、さらに詳しく緊急手術を行うべき指標をみつけることも大事です。

現在までに、Type Aであっても解離腔に血栓が多量にできている症例（血栓閉塞型）とそうでない症例（偽腔開存型）で、死亡率に差があることがわかっていますが、それだけでなく、D-dimerやFDPという凝固因子の血中濃度ほうがより死亡を予期できそうな

です。

前述の国立病院機構の研究では、Type Aで緊急手術を行わなかった症例（58例）を前述の因子で分けて死亡率を算出してみると、表のような結果になっています。偽腔開存型は血栓閉塞型の4.9倍の死亡率を呈していますが、FDPやDdimerは血中濃度の高低で死亡率が8.1倍、15.3倍となり、死亡の予測力が強い因子であろうことがわかってきました。

そうすると、搬送時の採血でFDPやD-dimerが低ければ、緊急手術はしなくても救命できるだろうということになります。まだ症例数が少ないので結論は出せないのですが、このようにType Aであっても緊急手術不要の症例も多く、その判別に採血のみで測定できる凝固因子もかなり有用と考えています。

そのために全国の14の国立病院機構の病院でType Aの急性大動脈解離を登録しさらに詳しく解析中です。この研究の内容はこのサイトでもわかります。

1. UMINの臨床試験登録試験

ID: UMIN000003019 登録日: 2010/01/18。

研究名: 凝固因子を指標に加えた急性大動脈解離 (Type A) の手術適応評価の有用性の証明研究。
(急性大動脈解離を検索して下さい)

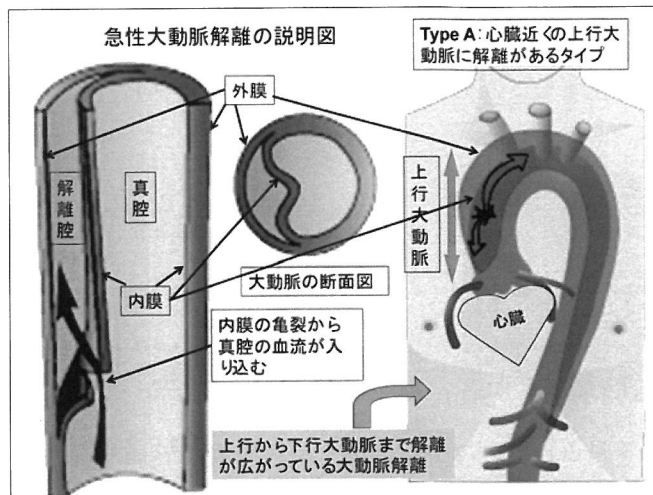
<https://center.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=search&action=input>

2. 国立病院機構熊本医療センターホームページ上での公開サイト。

http://www.hosp.go.jp/~knh/03iryokankei/rinsyokenkyu/nhonetwark/nho_gyouko.html

Type Aの急性大動脈解離で緊急手術を行わなかった症例の結果
(58例: 開存20、閉塞35、不明3例)

	死亡数	生存数	死亡率	死亡率倍率	95%CI
偽腔開存型	14	6	70.0%	4.9倍	2.1-11.6
血栓閉塞型	5	30	14.3%		p<0.001
Fibrino<250 μg/ml	9	8	52.9%	3.2倍	1.3-7.9
Fibrino>250 μg/ml	5	25	16.7%		p=0.009
FDP>20 mg/dL	11	6	64.7%	8.1倍	2.0-32.0
FDP<20 mg/dL	2	23	8.0%		p<0.001
D-dimer>20 μg/ml	10	7	58.8%	15.3倍	2.1-108.9
D-dimer<20 μg/ml	1	25	3.8%		p<0.001



新任職員紹介



事務部長

おか だ やす まさ
岡 田 安 正

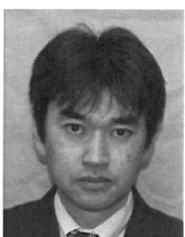
4月1日付で厚生労働省医政局から事務部長として参りました岡田でございます。

熊本医療センターは、開放型病院、地域医療支援病院、地域がん支援連携拠点病院として、地域の先生方のご協力を得て医療連携を推進しております。また、

昨年9月に新病院が竣工し、これまで以上に良質で安全な医療の提供が可能となり、地域連携も充実するものと思っております。そのような病院の一員となり、運営に関われることを大変うれしく思う反面、責任の重さを感じております。

地域の医療機関との連携と地域医療研修センターで実施する医師をはじめとする医療従事者を対象とした研修は、今後とも地域の先生方にご協力いただくことで、地域連携等の推進がますます図れるものと思っております。事務部としても、地域連携の推進に貢献できるよう関わっていきたく思っております。

微力ではありますが、一生懸命頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



企画課長

すえ つく こう き
末 次 剛 輝

4月1日付で企画課長を拝命しました末次でございます。昨年1年間は経営企画室長として医事部門で救急医療や地域医療連携に携わらせていただきました。

昨年9月の新病院への移転に関しましては、地域の医療機関の皆様には多方面からご協力を賜り、この紙面をお借りして厚く感謝申し上げます。現在は細かい部分では解決すべき点もありますが、概ね病院運営も軌道に乗り、新しい療養環境や充実した診療環境をご

提供させて頂いているものと思っております。

今年度は、駐車場整備、保育所整備及びヘリポート整備が予定されており、まだまだご迷惑をお掛けする場面もあるかと思っておりますが、来院される方々に極力支障が生じないように配慮した対応に心掛ける所存でございます。特に仮設駐車場の運用では引き続きご不便をお掛けいたしますが、今年度中には完成予定でありますのでご容赦いただきたいと思います。

今回の診療報酬改定では二つの重点課題に基づき、地域の医療機関の連携に対する評価が多々盛り込まれており、ますます地域医療連携が促進されて行くことが予想されます。地域の皆様方との連携体制の強化は勿論ですが、何をするにも当院の基本理念にある「良質で安全な医療の提供」を念頭に置いた対応を心掛けたいと思っております。引き続きご指導ご鞭撻の程お願い致します。



副看護部長

さる わたり え み こ
猿 渡 恵 美 子

4月1日付け異動で熊本再春荘病院より参りました副看護部長の猿渡恵美子でございます。平成2年に熊本を出ましてから7カ所目の病院となりました。今回

は熊本県内の異動ですので熊本医療センターのことは「患者を断らない病院」ということでいつも耳にしていました。赴任して以来、速い時間の流れに頭と体を慣れさせるのに四苦八苦しています。

急性期病院でめまぐるしく時間が過ぎていく中で、看護部の理念である尊重と自律の精神に基づき、いかにして患者の満足を向上させられるか常に考え行動することが役割と考えています。

院長、看護部長の指導のもと微力ではございますが努力いたす所存でございますのでよろしくご指導のほどお願いいたします。



副看護部長

まつ しま あつ こ
松 島 篤 子

4月1日付けで長崎医療センターより昇任で参りました副看護部長の松島篤子です。

熊本医療センターは、救命救急、高度専門医療、政策医療、医療連携、教育・研修、国際医療協力の面で充実した病院であると聞いております。新病院になって更にハード面とソフト面の整備がなされ、このような病院で働けることに喜びを感じております。病院の基本理念である、最新の知識・医療技術と礼節を持って、良質で安全な医療の提供を目指すために、看護師の人材育成に取り組んでいくことが副看護部長の使命であると思っております。

これからご指導頂きますようよろしくお願い致します。

新任職員紹介



感覚器センター

眼科

いぬ まる じゅん こ
犬丸 淳子

平成22年4月より当院眼科勤務となりました犬丸淳子です。

平成10年に大分医科大学を卒業し熊本大学眼科へ入局いたしました。翌年の10月から1年間当院で勉強さ

せていただきました。その後熊本大学病院、小倉記念病院、山鹿市立病院勤務後、大学院で4年半勉強した後、再び熊本大学病院で勤務しておりました。現在はまだ小さな子供が二人おりますので、非常勤としてお世話になることとなりました。

新しくなった病院で再び働かせていただくことができうれしく思います。

勤務時間も短く、お役に立てないことが多々あるかと思いますが、何卒よろしくお願い致します。



精神科

かわ うち しん や
川内 伸哉

平成22年4月より精神科に勤務することになりました川内伸哉です。

平成10年に佐賀医科大学を卒業後、今はなき熊本大学第3内科に入局。大学病院、荒尾市民病院で研修を積んだ後、国立がんセンター中央病院で3年間レジデ

ントをしておりましたので、今回は2度目のレジデントとなります。その後大学院にも行きましたが、学位取得には失敗。なんとなく要らない子になっておりましたが、親交のありました精神科の先生方のご助力、ご助言のおかげで結婚もでき娘も生まれましたことから、もう一度人生をやり直そうと昨年精神科に転科転属いたしました。自分では何事も中途半端な感じがしている周囲に迷惑をかけているような気がするのですが、妻・娘に背中を支えてもらいながら、頑張っていきたいと思います。何卒よろしくお願いいたします。



外科

お ざき のぶ ゆき
尾崎 宣之

平成22年4月より外科勤務となりました尾崎宣之と申します。

平成13年4月に熊本大学第二外科へ入局し、1年間の研修後、2年間の熊本市立病院レジデントを経て、天草地域医療センターに2年間外科として勤務いたしました。その後、熊本大学消化器外科教室の大学院に入学し、発生学研究センター臓器形成分野に出向し、

膵癌・膵炎の研究を中心に勉強させて頂きました。大学院卒業後、1年間大学病院消化器外科の病棟で勉強させて頂き、今回、当医療センターに勤務できることとなりました。

長い間基礎研究ばかりをしていたせいもあり、外科技術・検査技術で不十分な面もあり、スタッフの皆様や県内の先生方にご迷惑をおかけすることも多々あるかと思えます。また、電子カルテなどの病院内システムも初めて経験するシステムもありますが、少しでも早く熊本県内の先生方のお力になれるよう頑張っています。ご指導、ご鞭撻下さいますようお願い申し上げます。

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

くまびょうNEWS55号から継続して掲載されています。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~knh/>

新任職員紹介



腎センター
腎臓内科
かじ ほら けん ご
梶原 健吾

平成22年4月より腎臓内科にてお世話になります梶原健吾と申します。

平成15年に熊本大学医学部を卒業し、腎臓内科に入局しました。熊本大学附属病院にて研修したのち、八代総合病院、荒尾市民病院、熊本市民病院にて勤務いたしました。

熊本市では全国に先駆けて、行政からの大規模な支援を受けた慢性腎臓病（CKD）対策が開始されました。患者さんは成人の8人にひとりに上ると推測されています。一人でも多くの腎機能障害をもつ患者さんが、透析を受けることなく、脳心血管系疾患を併発することのないようにコントロールしていくお手伝いをさせていただければと考えております。

また、救急搬送の多い病院ですので、急性腎障害においてもさらに研鑽をつみたいと考えております。

少しでも先生方・患者さんのお役にたてるよう頑張っ
てまいりたいと考えておりますので、御指導御鞭撻の
ほど、何卒よろしくお願ひいたします。



消化器センター
消化器内科
くしま りか
具嶋 里香

平成22年4月より消化器内科に勤務となりました具嶋里香と申します。

2年間の初期臨床研修を終え、熊本大学病院で1年働いてからの国立病院機構熊本医療センターへの異動

となりました。国立病院勤務歴のある方からは国立病院について救急車搬入台数が多い、精神科疾患が多い、忙しい病院と聞いております。医師として4年目の私がやっ
ていけるのかと正直不安のほうが強いです、まずはできること
から一つ一つやっていきたいと考えています。そして国立病
院で救急疾患の治療、消化器内科の知識・技術の研鑽が
できればと思っています。消化器内科の先生はじめ、他科の
先生、コメディカルの方々には助けていただくことも多いか
と思ひますが、一生懸命頑張りますのでどうぞ宜しくお願ひ
いたします。



精神科
きくかわ ひろき
菊川 弘樹

平成22年4月より当センター精神神経科に勤務することになりました菊川弘樹と申します。

平成19年に熊本大学医学部を卒業し、熊本大学病院、熊本地域医療センターにて2年間の初期研修を終えた後、熊本大学神経精神科へ入局しました。

当センターは県内でも数少ない総合病院の中の精神科

であり、県内各地から多くの身体疾患を合併した精神疾患の患者を受け入れると伺っています。救急搬送の受け入れ数も以前と比べれば格段に増加しているとのことで、大変な面は多いかとは思ひますが、まだ医師としての経験が浅い自分にとっては大変勉強になり、またやりがいもあるのではないかと感じています。総合病院であるため、精神科的なコンサルテーションも多くあると思ひますので、他科の先生方のお力に少しでもなれるよう精一杯努力してまいりたいと思ひております。

ご迷惑をかける点は多いかとは思ひますが、宜しくお願ひ申し上げます。

医学生の為の病院見学のご案内

国立病院機構熊本医療センターでは、医学生を対象に病院見学を受け付けております。日本でも有数の救急車受け入れ実績を有する救命救急センターや鏡視下手術、造血幹細胞移植や血管再生療法など最先端の医療を垣間見ることができます。お申込みは国立病院機構熊本医療センター管理課鶴見（TEL096-353-6501）迄ご連絡下さい。

※見学の際は、白衣と大学名、氏名の記載してある名札をご持参下さい。

詳細については：<http://www.hosp.go.jp/~knh/> まで

研修のご案内

第98回 総合症例検討会(CPC)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成22年5月12日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ:大量服薬後の意識障害と発熱

(20歳代 女性)

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター救急科医長

原田 正公

病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理研究室長

村山 寿彦

「薬物依存症にて精神科通院歴あり。大量内服後に意識障害にて緊急入院となったが高熱が出現し、全身状態が急速に悪化した」

*臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー(解説)の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽にご参加下さい。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通)

第2回 症状・疾患別シリーズ(会員制)

[日本医師会生涯教育講座2単位認定]

日時▶平成22年5月15日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

演題:「ステントおよびステントグラフト治療・血管内治療」

座長 熊本県医師会理事

金澤 知徳

1. 冠動脈、末梢血管のステント治療

国立病院機構熊本医療センター 循環器内科医長

藤本 和輝

2. 大動脈瘤のステントグラフト治療

国立病院機構熊本医療センター 心臓血管外科医長

毛井 純一

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費10,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通) FAX 096-352-5025(直通)

第136回 月曜会(無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成22年5月17日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例検討「悪性外耳道炎の経過中の脳梗塞について」国立病院機構熊本医療センター神経内科 幸崎弥之助

4. ミニレクチャー「ソナゾイル造影超音波について」国立病院機構熊本医療センター消化器内科 片山 貴文

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第105回 三木会(無料)

(糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座1単位認定]

[日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成22年5月20日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「高カリウム血症および高血糖で緊急透析を行った糖尿病の一例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科 岩橋温・花谷聡子・児玉章子・高橋毅・豊永哲至・東輝一朗

2. 「糖尿病に腫瘍性骨軟化症を合併した一例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科 東輝一朗・花谷聡子・児玉章子・高橋毅・豊永哲至

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501(代表)内線5705

第104回 救急症例検討会(無料)

日時▶平成22年5月26日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「腹部骨盤外傷」

国立病院機構熊本医療センター外科部長

片淵 茂

国立病院機構熊本医療センター救命救急部長

高橋 毅

国立病院機構熊本医療センター放射線科医長

吉松 俊治

救急救命士、救急隊員を含めた全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通)

2010年 研修日程表 5月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

5月	研修センターホール	研修室	その他
6日(木)			7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
7日(金)			8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
8日(土)	9:00~12:00 楽しく学ぶ研修 「新人看護師のインシデントの傾向とその対策」		
10日(月)			8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
11日(火)			15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:30 外科術前後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2 18:30~21:00 泌尿器科・放射線科合同プログラム C1
12日(水)	19:00~20:30 第98回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 「大量服薬後の意識障害と発熱」		17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
13日(木)	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会一般検査研究班月例会		7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
14日(金)			8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
15日(土)	15:00~17:30 第2回 症状・疾患別シリーズ [日本医師会生涯教育講座2単位認定] 「ステントおよびステントグラフト治療・血管内治療」 座長 熊本県医師会理事 金澤 知徳 1. 冠動脈、末梢血管のステント治療 国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 藤本 和輝 2. 大動脈瘤のステントグラフト治療 国立病院機構熊本医療センター心臓血管外科医長 毛井 統一		
17日(月)	19:00~20:30 第136回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]		8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
18日(火)	18:00~19:30 第52回 くすりの勉強会(公開)		15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
19日(水)			17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
20日(木)		19:00~20:45 第105回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1単位認定] [日本糖尿病学会指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]	7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
21日(金)			8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
22日(土)	13:30~16:30 第116回 看護卒後研修 「医療者のメンタルヘルス」 福岡県立大学人間社会学部教授 上野 行良		
24日(月)			8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
25日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
26日(水)	18:30~20:00 第104回 救急症例検討会 「腹部骨盤外傷」		17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
27日(木)	18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
28日(金)			8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
29日(土)	9:30~16:00 第26回 ナースのための心電図セミナー 〈講演〉心電図の基礎 各種心疾患における心電図 不整脈 〈実習〉心電計の取り扱い方	国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 宮尾 雄治 国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 藤本 和輝 末藤内科循環器科 院長 末藤 久和 国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 藤本 和輝 国立病院機構熊本医療センター循環器内科 古賀 英信 国立病院機構熊本医療センター循環器内科 本多 剛 国立病院機構熊本医療センター循環器内科 平田 快紘	
31日(月)			8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読影室 手術室
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター
TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)